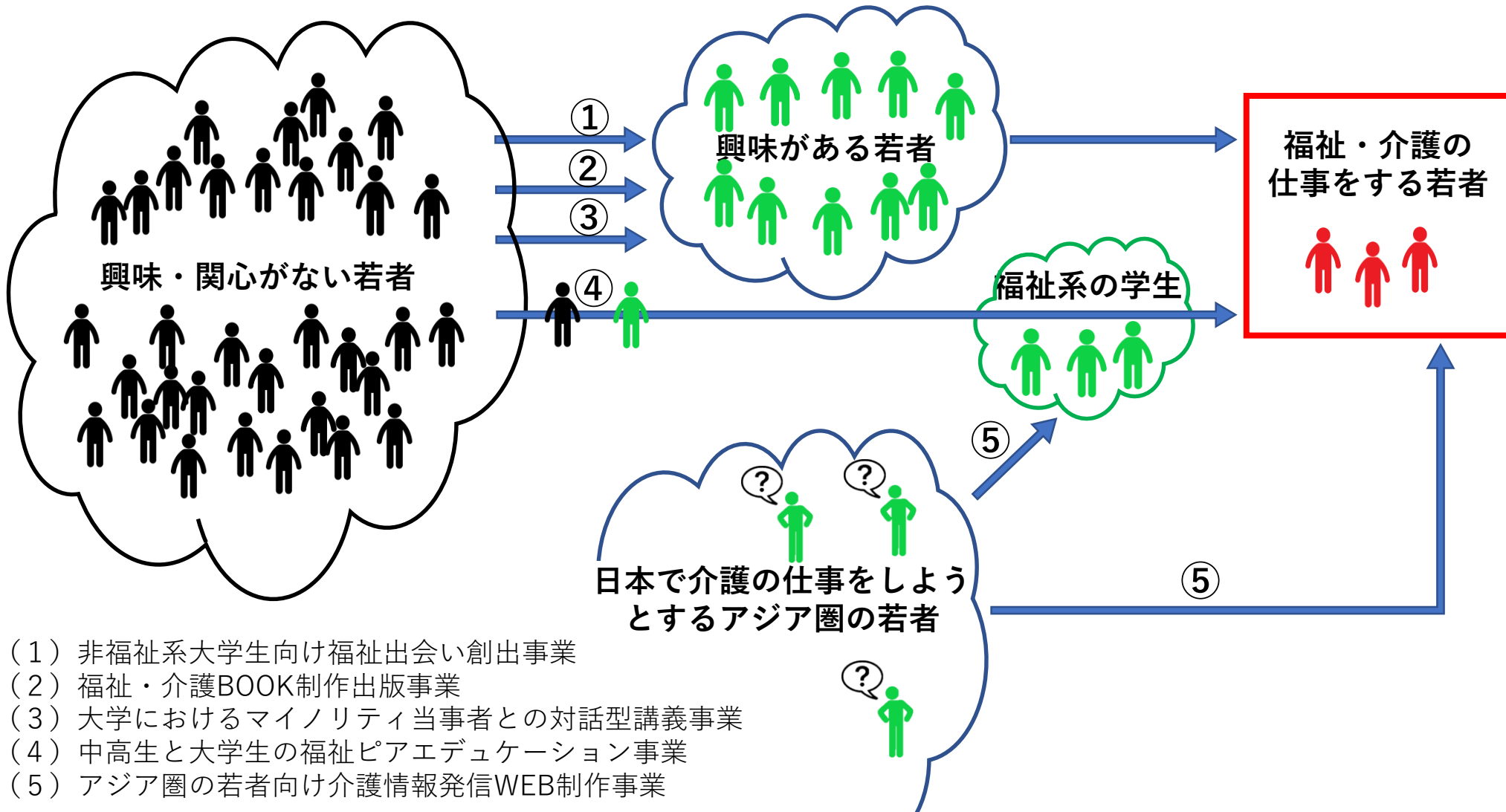


ターゲット別魅力情報発信事業（若年層向け）：事業実施イメージ図

福祉・介護に興味関心のない若者、
介護の仕事をしようとするアジア圏の若者などに対して
アプローチをすることで、福祉・介護の仕事をする若者を増やしていきます。



一般社団法人FACE to FUKUSHI、社会福祉法人福祉楽団、東京藝術大学の3団体でコンソーシアムを組み、下記の5つの事業に取り組んでいきます。

（1）非福祉系大学生向け福祉出会い創出事業（FACE to FUKUSHI）

本事業では、福祉系大学以外の学生で、福祉と親和性の高い領域（農業、まちづくり、教育、経営、心理など）に関心ある大学生に向けて、福祉の仕事の可能性を認知する機会を提供し、福祉・介護領域の業界でも自らの関心領域に取り組める可能性を認知してもらいます。

（2）福祉・介護BOOK制作出版事業（福祉楽団）

紙媒体としての雑誌、論考集を制作することで、洗練されたビジュアルを可能とし、ネットにはない記事や一過性ではないコンテンツを社会に流通させることが可能になります。また、紙媒体のほうが社会的に信頼されやすい傾向にあります。そうしたことをふまえて、次の出版物を制作しそれらを活用した事業を展開します。

（3）大学におけるマイノリティ当事者との対話型講義事業（東京藝術大学）

マイノリティ当事者が、大学に直接赴き、学生と対話型の講義をすることで、マイノリティへの理解や、福祉の仕事の重要性を、身を持って感じられる機会をつくります。

（4）中高生と大学生の福祉ピアエデュケーション事業（FACE to FUKUSHI）

福祉・介護の現場で活動している大学生が、少し年下の中高生に福祉教育を行うピアエデュケーションを実施します。大学生自身の福祉に対する学びを深めると共に、身近な存在からの授業を行うことで中高生の福祉・介護に対する理解を深めます。

（5）アジア圏の若者向け介護情報発信WEB制作事業区分（福祉楽団）

経済連携協定や技能実習生などの制度を活用して日本で働くことを考えているアジア圏の若者が基礎的な情報収集ができるWEBサイトを制作、運用します。